

平成24年12月8日(土)

第433回 史跡めぐり

## 九段・皇居・大手町(東京駅)

日本の歴史を学び

建造物を眺め、史跡を巡る散策

九段地区 「昭和館・靖国神社・千秋文庫」

北の丸公園 「日本近代美術工芸館・(科学技術館-昼食)」

皇居東御苑 「天守閣跡・松の廊下跡・富士見櫓・石垣・二の丸庭園・  
尚蔵館・大手門」

大手町 「将門首塚・東京銀行協会ビル・東京駅(解散)」



江戸城 天守閣(1657年焼失)

## 第433回 史跡めぐり

終戦前後の庶民の生活状況、千代田区内の九段・皇居・大手町の中世、江戸時代、近世の建造物、遺跡を中心にめぐります。

実施日 平成24年12月8日(土)

集 合 北越谷駅西口 交番前 午前8時30分

参加費 3000円(交通費、見学料、昼食、保険料など)

コース

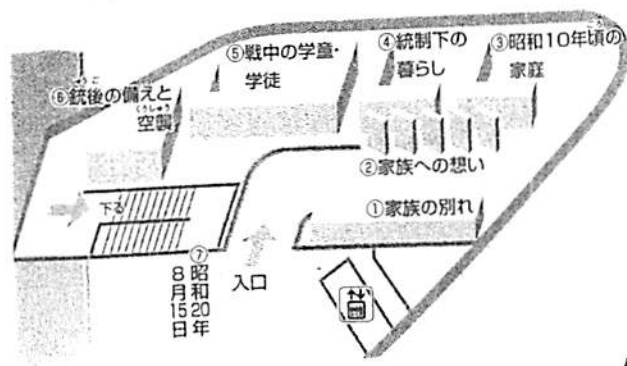
北越谷駅始発 8:51発(中央林間行) → 九段下9:43着  
昭和館 → 靖国神社(大村益次郎銅像・桜・斉藤弥九郎道場跡) →  
千秋文庫 → 北の丸公園(科学技術館で昼食、東京国立近代美術工  
芸館) → 皇居東御苑(天守閣跡・松の廊下・富士見櫓・庭園・尚蔵  
館) → 大手門 → 将門首塚 → 東京駅前(解散)

案内者 常任理事 田端 功政  
実行委員 西島 孝

## 昭和館

昭和館は戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中、戦後(昭和10年ごろから昭和30年ごろまで)の生活に係わる資料・情報を展示している国立の博物館です。

### 7階展示



平成11年3月に開館

### 各階の内容

#### 7・6階

昭和10年頃から昭和30年頃までの生活を伝える実物資料を展示

#### 5階

当時の写真、映像、音響資料をパソコンで見たり、聞いたりできます。

## 九段坂

長屋が坂に沿って九段に並んでいたためこの名がついたといわれる。昔は急坂で、車の後押しをする人足が常に坂の下に立っていた。

## 蕃書調所(ばんしょしらべしよ)跡

安政2年に洋書調所として設立され、翌年九段下の竹本図書頭正雅の上屋敷を蕃書調所と改称された。外交文書の翻訳や洋書の教育・研究を担う。

講義の内容は蘭学を主としたが、英・仏・独語を教えた。官営洋学の発祥地です。のちに本郷に移り東京大学になった。

## 靖国神社

明治2年(1869)、戊辰戦争戦死者の慰霊のため建立された。

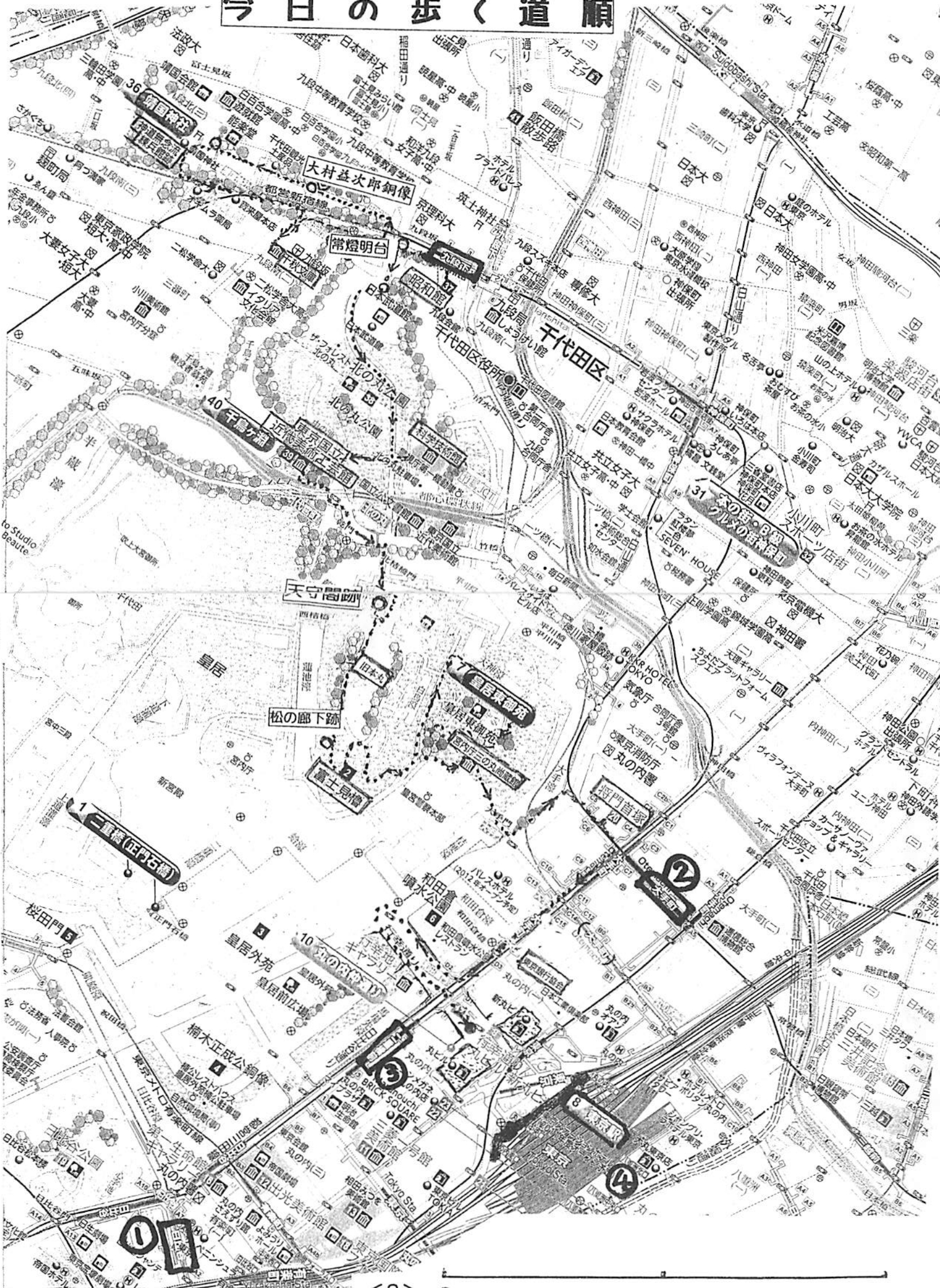
明治維新から第二次大戦までの戦没者250万人の御霊を祀る。

## 大村益次郎銅像

長州藩出身、緒方洪庵の塾に学ぶ  
兵部大輔としてフランス式軍制を採用  
し近代軍制の創始者。明治26年完成



# 今日の歩く道順



## 銅像の作者は大熊氏廣氏



鳩ヶ谷市大字三ツ和の農家に安政3年(1856)生まれ、小さい時から絵が上手、明治9年工部美術学校(現在の東京芸術大学)第1期生彫刻科に入學、パリ、ローマの美術学校にも学び、わが国銅像製作の始祖と仰がれている。

## 東京の桜開化宣言する「さくら」

靖国神社の境内に約600本の桜があり、その多くはソメイヨシノや山桜。ソメイヨシノを調べて、東京の開花を発表する。



## 齋藤弥九郎

千葉周作、桃井春蔵と幕末三剣豪と称された弥九郎の神道無念流の道場「練兵館」を開いていた場所。門下生には桂小五郎、高杉晋作等がいた。

## 千 秋 文 庫



千秋文庫は、旧秋田藩主の佐竹家に伝わる数多くの貴重な文化資料を一堂に集めた博物館である。

創立者の小林昌治氏は佐竹家34代当主佐竹義春公爵から、その所蔵の大部分の資料、美術品を譲度され、それらを後世に伝える文化財として永久保存するため、私財を投じ、昭和59年、堅固な耐震耐火構造の千秋文庫博物館を完成させた。

1階、2階を企画、常設展示場とし、当館の收藏品より年間3回企画展を開催すると同時に常設展示として、館蔵の秋田藩主の印章・花押・黒印270点、佐竹義生侯日常御愛用品約40点を展示している。

### 当館も主な收藏品

古文書、古記録(鎌倉年中行事など)。絵画(天の橋立図など)。古地図(万国興地図、関ヶ原戦場之図、大坂夏御陣之図)。江戸城、秋田城絵図、



書道書、茶道書、和歌文書、維新開国関係資料等があり、中世から近世にかけての武家の興亡の歴史をかいまみる資料が多くある。

## 常燈明台

この常燈明台は、明治4年に靖国神社が立てた。台石は当時の各藩からそれぞれ搬出された。昭和5年道路改修でこの地(前は道路の反対側にあった)に移された。

この常燈明台の灯りは品川沖に出入りする船から望見されたという。



常燈明台

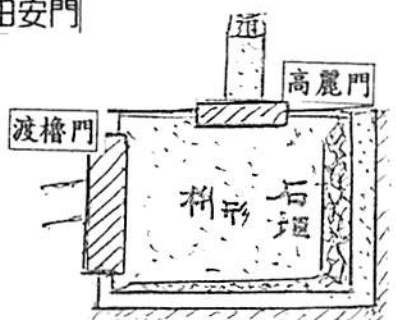
## 田安門

この門が創られた年代は不明。

明暦3年(1657)の大火を免れた。

枡形(ますがた)と称する方形の空地がある。

田安門



## 北の丸公園



昭和12年頃の近衛歩兵兵舎

徳川家康が入国当初は、内藤氏らの代官衆が住んだので代官町と呼ばれた。

江戸時代は北丸といい、代官屋敷や大奥に仕えた女中退隠所となった。有名な千姫や春日局がここに住んだ。明暦3年(1657)の大火を免れた。享保15年(1730)八代將軍吉宗の第二子「宗武」「は、ここに一家を創立して田安家を興した。「宗武」の子松平定信(白河樂翁)

この地でうまれた。

明治7年(1874)から近衛師団が置かれた。師団司令部、近衛歩兵第一と第二、教育總監部などの兵営があった。昭和47年(1910)に森林公園として開園した。

## 科学技術館 (昼食)

1964(昭和39年)東京オリンピックの年に開館

新しいタイプの理工系科学博物館である。常設の展示室2階～5階まで16室には、宇宙、鉄鋼、石油化学、土木建築、自動車、電力、コンピューターなど沢山展示されている。

## 東京国立近代美術工芸館

旧近衛師団司令部庁舎(重要文化財)

昭和52年開館わが国近・現代工芸の秀作を常設展示。

富本憲吉(陶芸)、浜田正司(陶芸)、芹沢啓介(染色)の作品がある。



## 乾 門



西の丸裏門を明治宮殿堂営の折に、現在の位置に移した。その祭に左右両袖を新たに増設し皇居の通用門とした。皇居の乾(いぬい)の方角にあるのでこの名になった。

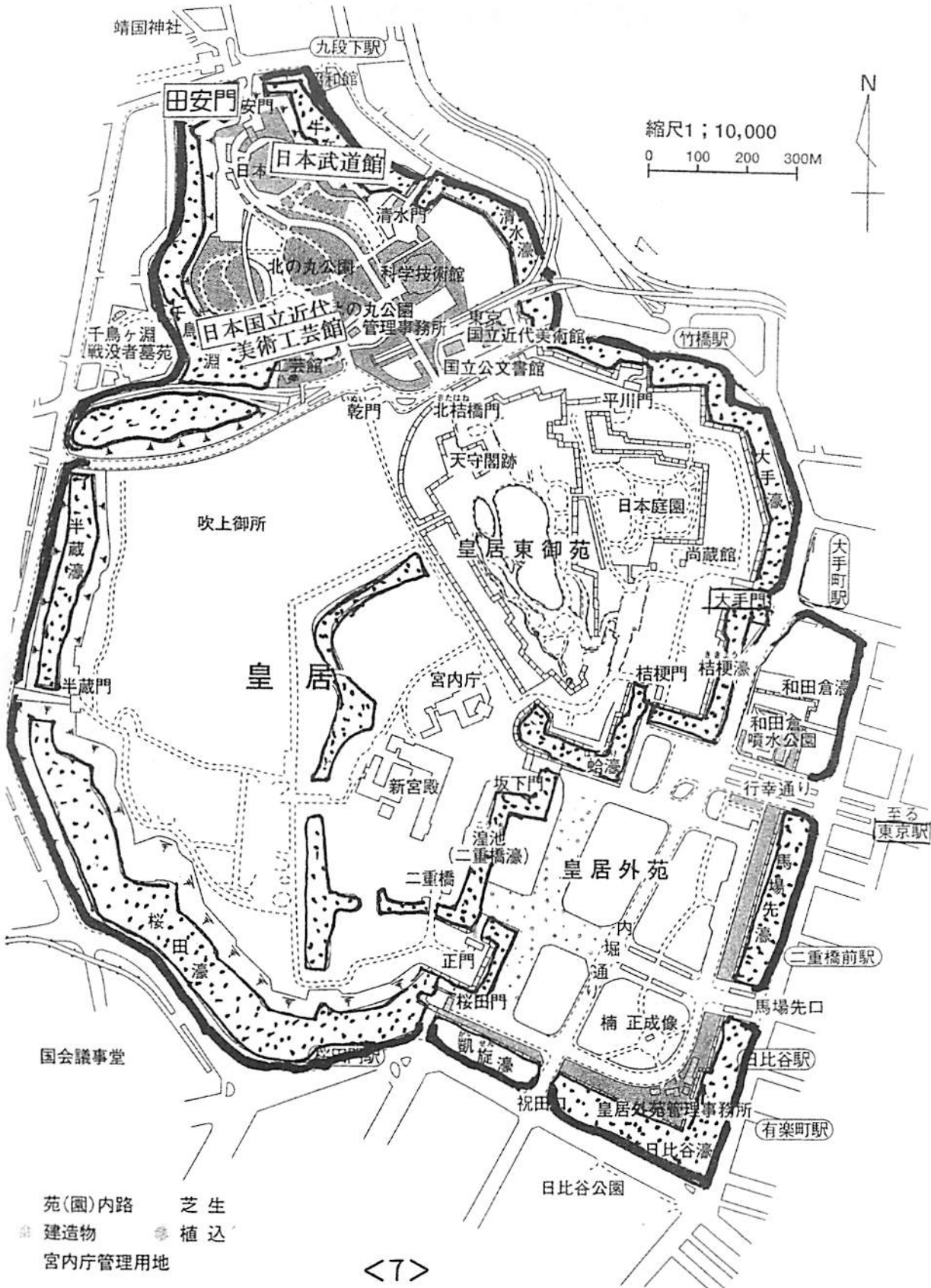
## 江 戸 城

江戸城は、八百年の長い歴史をもつ。江戸氏、大田氏、上杉氏、北条氏、徳川氏、現代の皇居と、六度その主を替え、現在にいたる。

江戸時代の江戸城は、日本最大の巨城であり、物資、技術、労力が動員された。全国の諸侯に助役を課し完成された。

將軍とその家族の住居だあるとともに幕府の政庁を兼ねた。

# 皇居外苑案内図





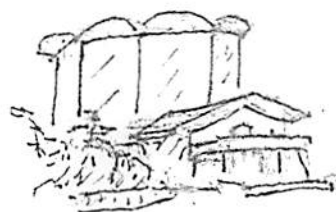
## 北桔橋(きたはねばし)門

この辺は、太田道灌時代、城の大手であったといわれる。江戸時代大奥から外部に直接通ずる門であった。濠を深くして石垣は堅固である。橋ははね上がる仕掛けであった。いつもは、橋はあげたままであった。



## 桃華楽堂(とうがくどう)

昭和41年に完成した音楽堂。鉄仙の花弁を形どった屋根と八面体の珍しい建物です。



## 天守台

天守閣の土台をなす部分で、最初の天守台は、慶長12年(1607)に第二代将軍秀忠の時に完成。その後、火事で焼失したが、寛永15年(1638)三代将軍家光の時に、国内最大級のものができあがった。

石垣の巨大石は伊豆や房総などから切り出し、船で江戸に運んできた。

現在の土台は 大火災「1657年」後に再建したものである。白い巨大石は、瀬戸内海から運んできた花崗岩である。天守台の高さは約10m 天守閣は44mあった。

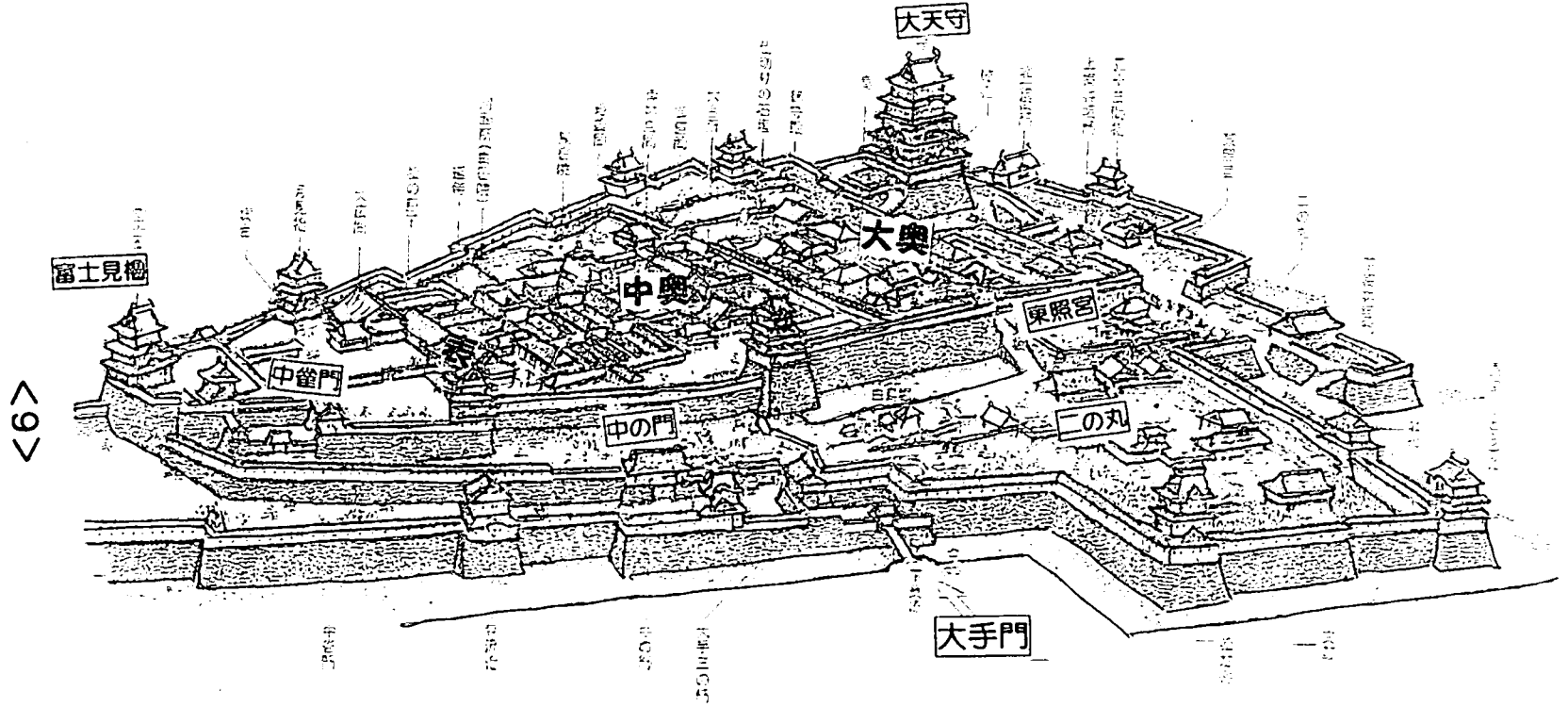


## 本丸跡

将軍の住居兼幕府の政庁として天下支配の中心であった。面積約1万坪、11の櫓、15の多門(たもん)、天守閣(外観5層---明暦の大火で焼失)

本丸は、表(儀式や行政事務)、中奥(将軍の起居、執務の場)、男子禁制の大奥(将軍の私邸)が存在した。

# 江戸城---天守閣・大奥・中奥・表



## 刃傷(にんじょう)松の廊下跡

江戸城本丸表御殿の松の廊下で元禄4年(1701)起きた。  
浅野内匠頭が吉良上野介に切りかけた所。



### 富士見櫓

本丸の南端にそびえる三重の城櫓、江戸城7基の三重櫓のなかで現存する唯一のものである。

### 同心番所・百人番所・大番所

大手門から本丸までに、警護のために番所が3つ置かれていた。最初の右手にある同心番所、ここには警護役人の同心が詰めていた。

三の門の左にある建物が百人番所、鉄砲百人組と呼ばれる甲賀衆、伊賀衆、根来衆、25騎組の同心百人が昼夜交代で詰め、警戒の目を光らせていた。

中の門跡を過ぎた右側にある建物が大番所で比較的身分の高い同心や与力が警護を担当し万全を期した。

### 二の丸跡・庭園

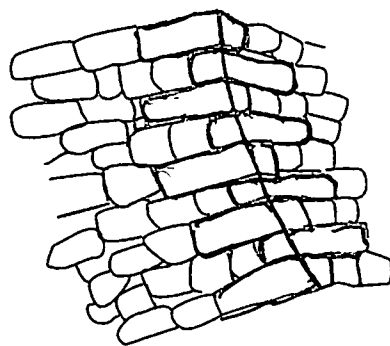
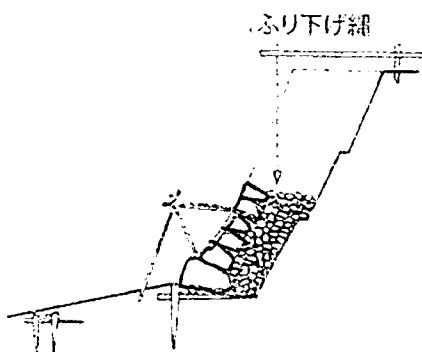


世子(将軍の後継者)が、大奥で育った後、ここに移り住んだ。この二の丸庭園は、寛永7年(1630)に小堀遠州が造園した。現在の庭園は9代将軍家重の時代の絵図面を参考に昭和40年に復元したもの。この庭園の北側に、各都道府県の樹木を集めた「県の木」植えられている。

## 皇居の石垣

城郭に石垣が本格的に取り入れられたのは、織田信長の安土城といわれます。この時に集められたのが、近江坂本穴太(あのう)に住む石工集団であったため、以後城郭の石垣構築を「穴太積み」と呼ばれた。

- ☆ 自然石をそのまま積む「野面積み」
- ☆ 切石の間に間詰石をはさむ積み方を「打ち込みハギ」
- ☆ 表面を四角く加工して隙間なく積む「切り込みハギ」
- ☆ 角の積み方を「算木積」といい、直方体の角石を二～三石を用いて長手方向を交互に積んで強度を増す構造体としている。

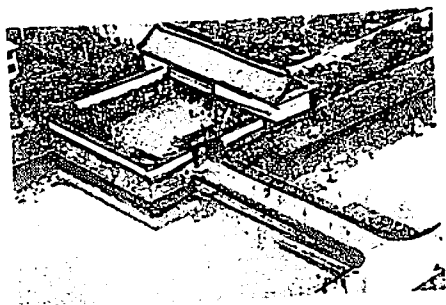


控の下方に三つの面が効むように角石材を交互に積む  
(第三期算木積=完成期の算木積)

## 尚蔵(しょうぞう)館

三の丸尚蔵館は、昭和天皇が所有になっていた絵画・書・工芸品などの美術品を一般に公開展示するミニ博物館です。現在は「鎌倉期の宸筆と名筆」、新古今和歌集竟宴和歌懐紙幅、天子摂関御影が展示されている。

## 大手御門



登場する諸大名が使用した江戸城の正門、門の左右が三の丸で、現在の皇宮警察本部付近は大名の従者たちの控所であった。現在の門は戦後に修復された。

## 將門の首塚

三井物産とランディック大手ビルの間に將門伝説の首塚の碑が建てられている。その昔、下総で殺された將門首が京で晒され、その怨念で京からここに飛んできたものを祀ったといわれる。



## 東京銀行協会ビル



改築前のレンガ造りの建物は横河工務所(松井貫太郎)の設計で1916(大正5年)に竣工、現在は外装2面が復元、内装も一部保存されている。

## 東京駅

赤レンガの丸の内駅舎。  
現在、東京駅は14本のプラットフォームを有し、1日4000本近くもの列車が発着するターミナル駅です。

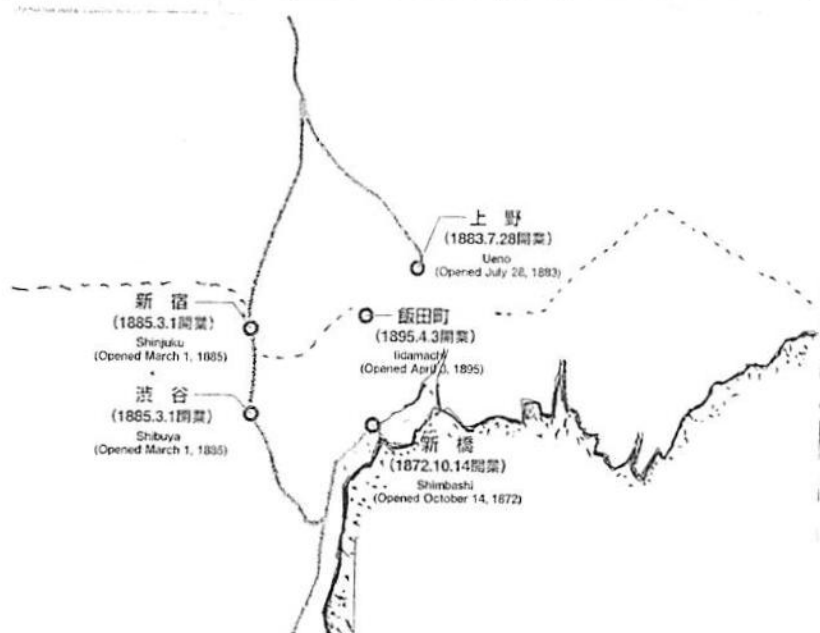
開業したのは1914(大正3年)。日本の建築界の第一人者「辰野金吾」が設計した。関東大震災の灘を逃れたが、第二次大戦で丸の内駅舎は炎上。ドーム部分や三階の多くを焼失した。現代の建築技術の粋を集め創建当時の姿に復元された。





# 明治38年(1895)頃の鉄道網

上野新橋間を結ぶ線路計画と中央駅建設計画されていた。

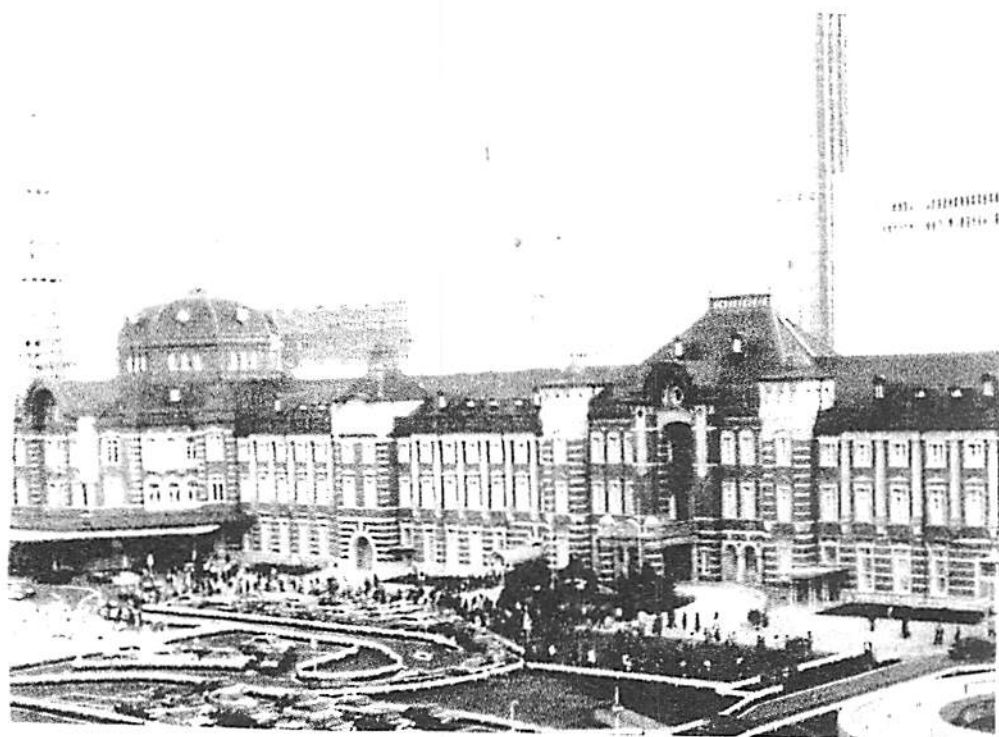


## 大手町・東京駅 → 越谷

- ① 日比谷線利用 日比谷駅 → (北千住) → 越谷
- ② 半蔵門線利用 大手町 → (北千住) → 越谷
- ③ 千代田線利用 二重橋前 → (北千住) → 越谷
- ④ JRと日比谷線 東京駅 → (御徒町乗換) 中御徒町 → 越谷
- ☆ 東西線・日比谷線 大手町 → (茅場町乗換) → 越谷
- ☆ 浅草へ出て東武線(東西線・銀座線・東武線)

大手町 → 銀座(乗換) → 浅草(乗換)・東武浅草 → 越谷





東京駅（2012年10月復原完了）

<次の資料から引用しました>

- 1 江戸・東京 歴史の散歩道II 江戸・東京文庫
- 2 江戸城 村井益男著 中公文庫
- 3 千代田区史跡散歩 岡部喜丸著 学生社
- 4 徳川幕閣 藤野 保著 中公新書
- 5 東京の歴史散歩 山川出版社
- 6 見取り図 江戸の暮らし 中江克己 青春出版社